

動物園・水族館において、統一された目的や哲学というのはどういうものなのかに心える戦略で、世界動物園水族館協会（WAZA）が平成17年に発表。

動物園・水族館は保全に焦点をあてなければならないとし、動物園・水族館及び植物園のみが、保全活動に関わる全てを行うことができるとしている。絶滅のおそれのある生物種の生息域外繁殖、研究、社会教育、トレーニング、活動に影響を与えること、活動を擁護することなどから、生物種、個体群、あるいはその生息域を生息域内で支援することまでのあらゆる活動を行うことができ、動物園・水族館はアクションを起こす時だとしている。

《構成及びそれぞれのWAZAの目標》

イントロダクション INTRODUCTION

動物園の歴史 HISTORY

1. 動物園がある理由 WHY ZOOS?

- 全ての加盟施設が、統合された自然保全の基本原則により行動される
- 加盟園館は、その財政的資力とスタッフを効率的に配置し、他園館と協働する

2. 継続させていくには HOW TO PROCEED

- 全ての加盟施設は、それぞれの地方、国、地域において生物多様性行動計画や同様の生物種回復計画において、それぞれの保全活動に力を注ぐ
- 動物園・水族館は、ホスト国の他施設や政府部局と協力して働き、一出来るかぎり一 野外で活動する保全スタッフを雇用する
- よく管理された動物園・水族館は、その地域に生息している絶滅のおそれのある種にとっての安全地帯となる

3. 研究 RESEARCH

- 全ての加盟園館は、特に保全に向けた研究活動を推進する
- 加盟園館は研究活動のために資金調達をする
- 新たな研究分野については、保全活動への応用可能性に関してモニターしなければならない
- 全ての繁殖プログラムは、それぞれ特定のプログラムの目標を目指さなければならない
- データは域外個体群から収集されるが、押収動物を受け入れる際にはWAZAのガイドラインを遵守して行われる

4. 教育 EDUCATION

- 教育は動物園・水族館の大きな仕事のひとつであり、また適切な支援を受ける必要がある
- 他の教育施設、組織、省庁との協働体制や、教育課程開発への参加により、保全教育を推進する基盤を作る
- 全てのスタッフが受けることのできる教育プログラムにより、その組織における統一した目標が共有される

5. コミュニケーション COMMUNICATION

- 全ての加盟施設は、目標、言葉、キー・メッセージを熟慮し、戦術と手法を選び、利用できる資源を選択し、モニタリングおよび評価技術を開発することを含むコミュニケーション戦略を採用する

6. 協力体制 COOPERATION

- 動物園・水族館は、あらゆるレベルにおいて強力なパートナーシップを確立する
- 動物園・水族館は、国レベル・地域レベルでの動物園協会の活動に参加する
- 動物園協会は、その地域の政府に対し動物園関連法規の改善について助言し、その加盟園館に対してはその地域の文化に沿った形で保全を行うという道義的な義務を持たせる

《構成及びそれぞれのWAZAの目標》

5. コミュニケーション COMMUNICATION

- 全ての加盟施設は、目標、言葉、キー・メッセージを熟慮し、戦術と手法を選び、利用できる資源を選択し、モニタリングおよび評価技術を開発することを含むコミュニケーション戦略を採用する

6. 協力体制 COOPERATION

- 動物園・水族館は、あらゆるレベルにおいて強力なパートナーシップを確立する
- 動物園・水族館は、国レベル・地域レベルでの動物園協会の活動に参加する
- 動物園協会は、その地域の政府に対し動物園関連法規の改善について助言し、その加盟園館に対してはその地域の文化に沿った形で保全を行うという道義的な義務を持たせる

7. 持続可能性 SUSTAINABILITY

- 全ての園館が環境的持続可能性を実践する
- それらの施設は、天然資源を消耗させずに利用し、どのように持続可能性を達成するかを示す
- 社会の態度や行動がどのように変化させられるかも明示する

8. 倫理と福祉 ETHICS AND WELFARE

- 全ての園館は、手法や専門技術の改善に努力を続ける
- 余剰個体を殺処分することが正当化されず、かつ健康上の問題を引き起こさずに繁殖制限できない場合には、その園館においてはその動物は飼育すべきではない

WAZAについて